



長薬同窓会の皆様へ

長崎大学薬学部長 はたけ
畑 山 すずみ
すずみ 範

長薬同窓会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私、本年4月より学部長を仰せつかって以来、その職責の重さをひしひしと感じております。薬学部をはじめ長薬同窓会の皆様のお知恵をお借りして、歴史ある本学部がより発展するよう微力ながら努力致すつもりでおりますので、宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年度、薬学の歴史始まって以来の大改革である6年制課程がスタートしました。この制度改革により、薬剤師国家受験資格を得るには6年間の学部教育を受けることが必要となりました。一方、薬学はこれまで生命科学の研究の発展に大きく貢献してきた実績から、この分野の研究者を養成することが強く求められ、それを担う4年制課程が引き続き設けられております。本薬学部は、これまで「ヒトの健康をめざして」を標語として掲げ、薬剤師と薬学研究者の両者を同等に育成することを基本方針としてきましたので、この制度改革にあたり、薬学科（6年制課程40名）と薬科学科（4年制課程40名）を併置しました。従って、当面の課題は、それぞれの特色を明確にし、両学科を如何に軌道に乗せていくかであり、将来に向けてその基礎作りが今最も必要とされていることと考えます。また、4年制課程に続く博士前期課程と博士後期課程を新たに立ち上げ、大学院における創薬研究者育成のための教育内容の充実を図ることも大きな課題として挙げられます。さらに、高度な臨床薬学の教育と研究を担う6年制課程に続く博士課程の設置に向けて、早急に検討を深めて行かなければなりません。この様な状況におきまして、長崎大学薬学部では、新しいプロジェクトを試みておりますので、その現況を紹介させていただきます。

第1の話題は、「離島・僻地医療に貢献できる薬

剤師の養成教育プログラム」に関するものであります。これは、平成19、20年度の2年間、上五島と下五島で実習を行い、離島における医療・福祉・保健スタッフの連携、高齢者に対する係わり方などを体験する中で、コミュニケーションの大切さや地域における薬剤師の果たす役割などを学生に学んでもらうことを目的としております。この7月より既にスタートしており、中島弥穂子准教授と荒木良介助教の2名のスタッフが常駐し、五島地区の地域医療施設等（病院、保険薬局、保健所、特別養護老人施設等）において、本学の医学部学生と共修という形で患者さんや住民の方々と向き合った全人的医療の体験学習を行っております。

第2の話題は、地域薬剤師卒後教育研修センターであります。本センターは平成18年に中島憲一郎教授をセンター長として設立されたセンターであり、地域薬剤師の皆様の卒後教育の場として研修会を、また、様々な領域で活躍しておられる卒業生の方々から貴重なお話をお聞きする場として講演会を開催しております。本年度は、3コース各3回ずつ計9回の研修会を行います。講演会は既に、5月19日に吉岡優子先生、龍 恵美先生、多田和子先生、松尾千穂子先生の4人の講師をお迎えし、「多彩な分野で活躍する女性薬剤師」と題し第1回目を行いました。さらに、10月20日には、海外において国際的に活躍をなさっている小林龍二先生と下村 脩先生の2名の講師をお迎えし、「薬学研究の楽しさと喜び」と題し第2回目を盛況の中に開催しました。これまでの講演会を通して、長崎大学薬学部は多くの優秀な卒業生を輩出していることをあらためて認識させられました。今回は講演会と同時に、下村先生の長崎大学名誉校友記授与式を行わせていただき、薬学部また長薬同窓会にとりましても大変誇らしく、喜ばしいことでありました。

第3の話題は、薬学部国際化の一環として、英語による大学院授業コースを2年前から開講しておりましたが、この実績が認められまして、本年10月から外国人留学生特別選抜コースとして国費奨学生7名枠を獲得できました。留学生1人当たり年約200万円以上ですので、7人で1400万円、5年続けば7000万円以上のプロジェクトに成長し、薬学部の国際化が益々進むと期待しております。

上記の最後の話題2つは、平成16年に「長崎大学薬学教育研究活性化基金」として皆様から頂戴いたしました寄附を基にスタートしたプロジェクトです。あらためて感謝の意を込めて報告させて頂きました。同窓会の皆様には、薬学部のさらなる発展のために、これまでと変わらずご支援ご高配をいただきますようお願い申し上げます。



薬学部正面玄関